

ミリオンの本との出会い・想い・つながりを ～読書機会の確保に向けた取り組み～

1 はじめに

那珂川市は福岡市の都心部から南に13kmに位置する市です。市南部の背振連山を源に発する那珂川とともに豊かな自然が形成されている一方で、北部は平野部が広がり、福岡市などに連なる市街地を形成しています。

現在の那珂川市は、人口増加により那珂川町誕生から62年後の平成30年10月に市制を施行しました。

2 子どもの読書推進

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定され、翌年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が閣議決定されました。これは、テレビやインターネットをはじめとするさまざまなものメディアの発達、あるいは生活環境の変化により、大人だけでなく子どもも読書離れや国語力の低下といった問題が指摘されるようになってきたことも一因となっています。

本市においては、家庭・地域・学校が一体となり、読書活動の推進、啓発に努めるべく、平成25年4月に「那珂川町子ども読書活動推進計画」(制定当時は町)を第1次計画として策定しました。継続して読書活動の推進を図るため、現在は第3次計画に基づく取り組みを進めています。第1次計画を策定以降、教育委員会・図書館職員のみならず、学校司書や読書ボランティア団体など様々な関係機関と連携しながら読書活動推進に力を入れています。

(1) 「子ども読書活動推進計画」の推進

「子ども読書活動推進計画」において目標とする姿とし

て「いつでも どこでも 子どもたちと本をつなぐ」を掲げています。

計画は「家庭」「地域」「幼稚園・保育所（園）・認定こども園など」「学校」「図書館」の5つの視点から成り立っています。

① 家庭

乳幼児期から切れ目なく子どもの読書活動をサポートすることを目標に、親子で参加できる講話やワークショップなどを実施しています。また、子ども向けの本の情報誌「ほんのさんぽみち（特別編）」の発行、家庭教育学級（保護者が子育てや家庭の教育力向上について学ぶ場）において親子で楽しめる手遊びやリズム遊び、絵本の読み聞かせなどを行っています。

② 地域

家庭における読書活動をサポートすることを目標に乳幼児だけでなく、ふれあいこども館（市の複合児童福祉施設）に小中高生向けの図書コーナーを設置することで、読書する子どもたちが増え、読書推進につながっています。ふれあいこども館には乳幼児向けの絵本を設置し、月齢の低い乳児の保護者も気軽に絵本を手に取ることができるようにしていることに加え、おはなし会や読み聞かせなどを実施しています。

③ 幼稚園・保育所（園）・認定こども園など

絵本の楽しさを子どもや保護者と分かち合うことを目標にしています。乳幼児期から本に慣れ親しめるように読書ボランティアとも協力しながら子どもや保護者に本の楽しさについて周知するよう努めています。

④ 学校

本の楽しさや可能性を子どもと共有し、子ども自身が本を手に取るように導くことを目標にしています。各学校

で読書環境の整備や図書室資料の充実を図るべく、蔵書率の向上に努めています。読書ボランティアの協力のもと、読み聞かせやおはなし会、ブックトークやビブリオバトルの実施など児童・生徒の読書への関心を高める様々な活動に取り組んでいます。

また、児童・生徒による読書推進活動の一環として、読書リーダーおよび読書サポーターの養成を行い、生徒自ら読書推進意識の醸成を図っています。

⑤ 図書館

子どもと本をつなぐため、関係機関とのネットワークを構築することを目標にしています。

幅広く多くの人に読書の楽しさや大切さを伝える活動を続け、設備や資料の充実だけでなく、読書推進活動を行っている人や団体の育成・支援を行っています。また、学校司書、図書館職員、行政職員を含めた交流の場を設け、互いに協力し合える体制づくりに努めています。

(2) 令和6年度福岡県読書推進大会

「福岡県読書推進大会」は、本との出会いや読書が豊かな人生の糧となることの理解を深め、読書活動をより充実させることを目的として毎年福岡県内の市町村で開催しており、令和6年度は那珂川市が会場として選出されました。図書館開館30周年及びリニューアルオープン（令和6年6月にリニューアルオープン）を記念し、令和6年11月に開催しました。大会当日は、ボランティアとして50名を超える団体・中高生の協力のもと運営し、多くの方に来場いただき盛況な大会となりました。

ミリカローデン那珂川（図書館を含む複合文化施設）の文化ホールを会場に2部構成で行い、第1部の優良読書グループの表彰では、「地域文庫」の表彰を行いました。「地域文庫」は図書館が平成6年4月に開館する前から県立図書館から本を借り、市内各地区公民館への本の整備や地域でのおはなし会活動などを行い、長年に渡って本市の読書活動をサポートしている団体で、現在も図書館やふれあいこども館で定例のおはなし会を行うなど精力的に活動しています。大会では、団体の代表が写真

や動画を交えてプレゼンテーションを行い、来場者にその活動内容について知っていただくことができました。

第2部は、「本を開いて旅に出よう」をテーマに、福岡県出身の作家・荒木あかねさんを講師に招き、トークショー形式で講演していただきました。後半は、市内の中高生から荒木さんに質問をするコーナーを設け、様々な質問が出されました。来場者や関係者からは、「中高生の子どもたちが一緒にトークすることで子どもたちにとっても印象深く、読書を更にやってみようという意欲がわくきっかけになるイベントだった」「ご自身の体験をとてもリアルに語ってください、夢をあきらめないために夢をまわりの人に話すなど、子どもたちにとってもためになる話だった」など、好評の声を多数いただきました。

また、関連企画として、11月1日から大会終了まで図書館やミリカローデン那珂川エントランスホールにおいて、市内読書関係団体（図書館応援団など）や小中学校図書室（学校司書・児童生徒）が作成した活動内容の紹介展示を行いました。



▲荒木あかねさんトークショー

3 図書館リニューアル

本市図書館は複合文化施設であるミリカローデン那珂川の一部として開館し、現在31年目を迎えています。令

和3年度から4年をかけて実施したミリカローデン那珂川全体のリニューアル改修工事は、平成6年に開館した施設の老朽化に伴い計画したものですが、改修にあたっては単なる改修工事ではなく、施設の使い方も含めたりリニューアルを行うものとしました。

(1) リニューアルコンセプト

ミリカローデン那珂川が本市における文化振興拠点としての役割を果たしていくため、新たなコンセプト「ミリカプラス（+）～成長する文化施設～」を設定し、利用者にとって居心地の良い第三の居場所となることを目指しました。

工事は施設の利用状況を踏まえ、可能な限り施設を運営しながら工事を進めるため、令和3年度から6年度の4年（4期）で実施する計画とし、図書館の工事については第3期工事として、令和5年度に実施しました。



▲リニューアル後の図書館内部（ティーンズガーデン）

(2) リニューアル後の図書館

リニューアル前後での図書館の主な変更点としては、館内を大きく2つにゾーニングし、館内の手前（入口側）は明るい色での仕上げ、低い本棚の配置、親子で過ごせるコーナーなど子ども向けの賑やかなスペースを設け、奥には一般書を置き、落ち着いた雰囲気の色で仕上げるなど、大人向けのゆっくり読書ができるスペース

をつくっています。それぞれのスペースには「ミリカの木」を配置し、周辺のテーブルや椅子の形状だけでなく、本棚の配置や内装に変化を持たせる工夫を行い、幅広い世代が読書を楽しめる空間に仕上げました。「ミリカの木」はリニューアル後のミリカローデン那珂川のシンボルとなるもので、図書館には2つの「ミリカの木」をつくっています。「ミリカの木」の中ではゆっくり本を読むこともできます。

更に「サイレントルーム」や「ティーンズガーデン」を新設し、読書に限らず様々な用途で使用できる場所を設けました。「サイレントルーム」は防音仕様で読書に限らず静かに過ごしたい人のために、「ティーンズガーデン」は主に中高生が過ごすことを想定したスペースとして設置しています。ゾーニングと新しい部屋の設置によって、親子連れや子どもたちが館内で周りを気にしきりずに過ごせる「滞在型の図書館」を目指しています。リニューアルオープン以降、試験的に図書館内でフルートのコンサートや映画の上映会を企画するなど、多様な使い方を模索しています。また、壁際など多くの場所にテーブル・椅子を配置したり屋外テラスを設置したりするなど誰もがそれぞれの居場所を見つけられる空間となっています。



▲ミリカの木

4 移動図書館車「ミリカー」

令和7年度から新しく移動図書館車の運行をスタートしました。本市の地形は南北に長く、図書館は市北部に位置していますが、南部地域の市民が気軽に利用できる環境ではなく、また、隣接する周辺自治体は既に移動図書館車を導入し、市内の公共施設や高齢者福祉施設などを定期的に巡回し、図書館サービスを展開しているという状況がありました。加えて、誰でも身近に本に触れられる環境を整備し、読書推進につなげてほしいという市民からの強い要望もあり、移動図書館車の導入に向けて動き出しました。

本市は約7割を山林が占めており、周辺自治体に比べると細い道が多く、停車場所も限られています。そういう地形的な特性や、できるだけ市内全域に、より市民の

＼子どもたちと考えました／

いどうとしょかんしゃ
「移動図書館車」って？
図書館の本を載せて市内の色々な場所を巡る、
「動く図書館」です。
令和7年4月から、那珂川市でも運行スタート！

移動図書館車のデザイン完成！

9月に実施した、移動図書館車デザインワークショップ。35名の子どもたちが参加してくれました。「移動図書館車に描いてあらういいな」と思う絵柄を、○・△・□の形を上手に組み合わせて、子どもたちが思い思いに描いてくれました。

ワークショップを実施してくれたデザイナーさんの力で、「本の中から飛び出した世界」というテーマでデザイン全体を構成。構成にあたっては、描いてくれた子どもたちの絵柄を大切にするため、全員の絵柄を1点以上採用しています。

↓ 完成したデザインがこちらです ↓

色味は多少変わることがあります。

本の森 空

「本の森」（運転席側）では、動物や人が楽しそうに過ごしたり、「空」の下（助手席側）では、植物や鳥などが楽しそうに過ごしていたり。子どもたちの絵が、ところせましと、そしていきいきと描かれたひとつの物語になっています。描いてくれた子どもたちのたくさん思いが詰まった移動図書館車です。皆さんの住んでいる身近な場所へやってくることを想像して、ぜひ素敵な名前をつけてください。

あなたは、どんな名前で呼んでくれますか？

愛称募集中！

詳細は、那珂川市ホームページで▶

▲愛称募集のチラシ

近くまで本を届けたいという図書館職員の熱い思いもあり、図書館付近の行政区を除く市内全行政区を巡回できるよう中型の車両を導入し、各区にそれぞれ1か所以上ステーション（巡回場所）を設定しました。最終的には公民館や公園、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、小学校など全42か所を回るルートとなりました。

また、車体のデザインについては、市内の子どもたちを対象に「移動図書館車デザインワークショップ」を開催し、35名の子どもたちが参加してくれました。市の鳥「カワセミ」や「本」など、「移動図書館車に描いてあらういいな」と思う絵柄を○・△・□の形から上手に組み合わせて、思い思いに描き、その絵柄をもとにデザイナーが「本の中から飛び出した世界」というテーマで全体デザインを構成しました。そのまま車体に合わせて調整したデザインを車体デザインとして採用し、前後左右、全面に大きく子どもたちのイラストを載せた可愛らしい車が完成しました。描いてくれた子どもたちの想いを大切にするため、ワークショップに参加してくれた子どもたち全員の絵柄を1点以上採用しています。

完成した車体デザインをもとにデザインに合った愛称の公募を行い、141点の応募の中から候補を絞り込み、最終的に市内全小学校の5・6年生による投票の結果、「ミリカー」という愛称が選ばれました。この愛称には「ミリオン(million/ たくさん)の本との出会い・関わる人た



▲移動図書館車「ミリカー」

ちの想いやつながりを、ミリカ（ミリカローデン那珂川）から利用者のあなたのものとへ運ぶ車」という想いが込められています。

「ミリカー」は約2,000冊の本と多くの人に本に触れてほしいという想いを載せて、子どもから高齢者まで、多くの人に利用していただいている。

5 おわりに

これまで紹介した活動のほか、文部科学省主催の「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）」の表彰を2年連続で受けています。令和5年度は「那珂川市立小・中学校読書ボランティア連絡会」が、令和6年度は本市図書館及び市立那珂川南中学校が表彰されました。

これからも図書館サービスの充実を図りながら学校や読書ボランティアなど様々な団体との連携を強め、読書の推進に効果的な取り組みを進めていきます。特に次代を担うすべての子どもが、それぞれの発達段階・個性に応じて、人間形成に役立つ質の高い本と出会うきっかけを作り、興味・関心を高め読書活動の範囲を広げ、様々な読書体験ができるような環境づくりを目指していきます。